

S&I NEWS LETTER

2024
SUMMER | VOL. 06

増える選択肢と変わるライセンス体系。 企業はどの HCI ソリューションを選ぶべきなのか？

エス・アンド・アイ株式会社

新井健太

エス・アンド・アイ株式会社

加藤タクマ

最近では、コロナ禍を経て経済活動の再開などを背景に、ハイパーコンバージド・インフラストラクチャーに対する需要が堅調に推移すると見込まれています。一方で、2024 年 2 月の Broadcom による買収を契機に大幅にライセンス体系が変更となった VMware 製品。HCI 市場においても多くのユーザーを抱える同社の動向を背景に、多くのユーザー企業が、今後も継続して利用するか、他社へ移行するか迫られていると言えます。

今回は、各社が提供するハイパーコンバージド・インフラストラクチャーソリューションの特徴を紹介するとともに、今後、企業はどのような観点から選択していくべきなのかをご紹介します。

INDEX

1. 経済活動の再開とともに高まる HCI へのニーズと市場の変化
2. 各社が提供する HCI ソリューション、それぞれの特長と選ぶ際のポイントとは？
3. [事例で解説]
ソフトウェア更新がままならない…運用課題をクリアした VxRail への移行

1 | 経済活動の再開とともに高まる HCI へのニーズと市場の変化

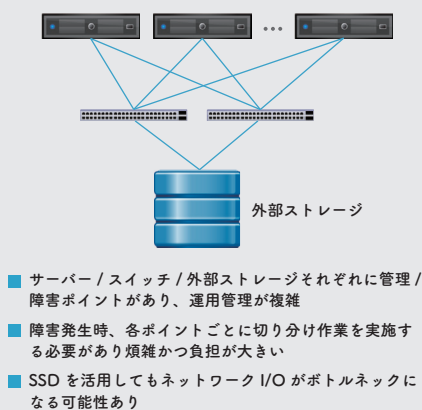
ハイパーコンバージド・インフラストラクチャー（以下、HCI）とは、SDS（Software Defined Storage）技術により、サーバー・SAN・ストレージの3層構造を排除し、サーバーに搭載されている内部ストレージを共有ストレージのように利用できる仕組みです。主要な HCI ソリューションとして、VMware vSAN、Nutanix、Microsoft Windows Server HCI（以下、S2D）などがあり、シンプルな運用管理、ビジネス成長や変化に対応できる柔軟な拡張性、コスト効率の向上などの

メリットが挙げられ、企業の規模を問わず採用が進んでいます。

特に、スペースやリソースが限られる各拠点での採用や高いパフォーマンスと拡張性が求められる VDI 環境での採用も継続して増加傾向にあるほか、最近では、コロナ禍を経て経済活動の再開などを背景に、HCI に対する需要が堅調に推移すると見込まれています。

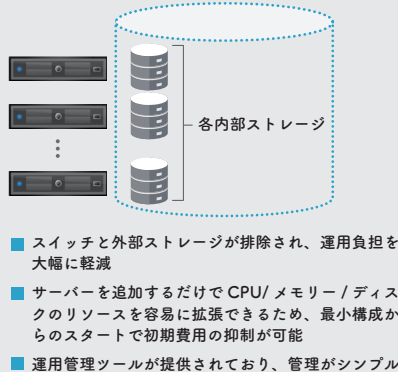
HCI の仕組みと今後の市場予測

従来の共有ストレージ型

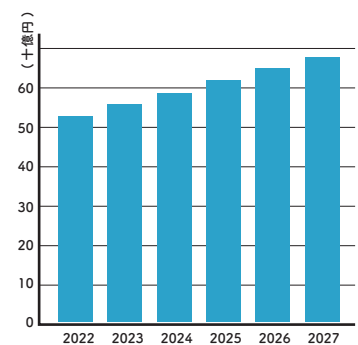


HCI

SDS 技術により各内部ストレージを共有ストレージのように使用可能



【今後の市場予測】



引用元：IDC Japan 株式会社・国内ハイパーコンバージドシステム市場予測（2023年6月）

一方で、Broadcom による VMware 買収を契機に 2024 年 2 月 4 日をもって従来の買い切り型のライセンスから、新たなパッケージングとサブスク型のライセンスに移行することが発表され、vSAN を利用する一部のユーザーでは相対的に費用の引き上げにつながるなどの懸念も生じています。

S&I でも多くのお客さまに HCI の構築支援を行っており、中でも vSAN を利用されるお客さまからは、今回のライセンス体系の変更をキッカケに他社製品に切り替えを検討したいと

いうご依頼が増えています。

しかし、多くのソフトウェア製品でも「買い切り型+保守」という体系からサブスク型が主流になりつつある今、今後も各社でこうしたライセンス体系の見直しは考えられます。企業は、運用や今後のビジネスの観点などから、適した HCI ソリューションを選ぶ必要があります。今回は、S&I のサーバービジネスを牽引する新井健太と加藤タクマより HCI ソリューションの今後について紹介します。

2 | 各社が提供する HCI ソリューション、それぞれの特長と選ぶ際のポイントとは？

— 新井健太

これまで、vSAN と Nutanix の機能比較や Dell と VMware が共同開発した VxRail の検証などの記事を公開してきましたが、HCI それぞれ製品によって特徴があります。まず、主要ソリューションである vSAN、Nutanix、S2D の特長とどんなお客さまからのニーズが多いのかについて簡単に紹介します。



S&I デジタルインテグレーション本部 デジタルプラットフォームサービス
プラットフォームディールハブ 部長 新井健太

使い慣れたユーザーも多い

『VMware vSAN』

VMware vSAN の特徴は何といっても多くのお客さまが利用されている vSphere がベースになっていることではないでしょうか。使い慣れた vSphere で引き続き運用できる点が最大のポイントです。vSphere を継続利用したいというお客さまから高く支持されています。

安心のサポート体制が特徴

『VxRail』

VMware と Dell が共同開発した HCI ソリューションです。定期的に発生する vSphere のソフトウェア更新を Dell サポートで対応してもらえるプランもあります。VMware 本社に常駐する Dell 社員が VMware サポートと密に連携しているサポート窓口に、24 時間 365 日いつでも日本語で問い合わせられる安心のサポート体制も特長です。vSAN のメリットに加えて Dell の運用サポートを活用できるため、運用負荷を減らしたいというお客さまにオススメです。

AVH でコスト抑制！

『Nutanix』

複数のハイパーバイザー（vSphere・AHV・Hyper-V）がサポートされており、中でも AHV の場合、ハイパーバイザー用の追加ライセンス料がかかりません。AHV でハイパーバイザー分のコストを削減したいお客さまにもオススメです。最近ではもともと Nutanix+vSphere で導入されていたお客さまが更改に伴って Nutanix+AHV に変えるケースも増えています。また、非同期レプリケーション機能が標準搭載されているため、複数拠点にいて DR 構成を組みたいというお客さまからのニーズも多くあります。

RDMA でパフォーマンス UP を狙える

『Windows Server HCI (S2D)』

ハイパーバイザーのライセンスで Windows Server 仮想マシンを無制限に立てることができます。3 ノードまでの小規模環境ではスイッチレス構成も可能です。一方、大規模環境においては、ストレージトラフィックを RDMA（Remote Direct Memory Access：リモートのコンピューター間で直接メモリーヘデータの DMA 転送を行う仕組み。OS を経由せずにデータ転送が行われるため、高スループット、低レイテンシの通信が可能。）で処理することで、ハイパフォーマンスな構成を組むこともできます。

Windows Server が多く採用されている業務システムで、仮想マシンライセンスコストを削減したいお客さまや、小規模環境だからこそ初期導入コストを抑えたいお客さまから高く支持されています。また、SQL Server など性能要求の高い仮想マシンを利用しており、RDMA を活用してパフォーマンス向上を狙いたいお客さまにオススメです。

3 | [事例で解説] ソフトウェア更新がままならない…運用課題をクリアした VxRail への移行

— 加藤タクマ

具体的な事例として、Veeam Backup&Replication（以下、Veeam）を使用して 3Tier 仮想化基盤から VxRail へ移行したお客さまをご紹介します。

こちらのお客さまはもともと 3Tier 環境を利用されていましたが、vSphere の定期的なソフトウェア更新に割く時間がなく、導入時のバージョンで塩漬けしたまま vSphere 5.5 の EOL を迎えた後も運用されていました。



S&I デジタルインテグレーション本部 デジタルプラットフォームサービス
プラットフォームディールハブ 加藤タクマ

弊社では、お客さまの vSphere を継続利用したいという意向と、ソフトウェア更新に手が回らない状況を踏まえ、Dell サポートにてソフトウェア更新が可能な VxRail をご提案しました。

また、通常 vSphere から vSphere への移行にはストレージ vMotion を使うことが多いのですが、既存環境の vSphere のバージョンが古く、ストレージ vMotion を利用できなかった

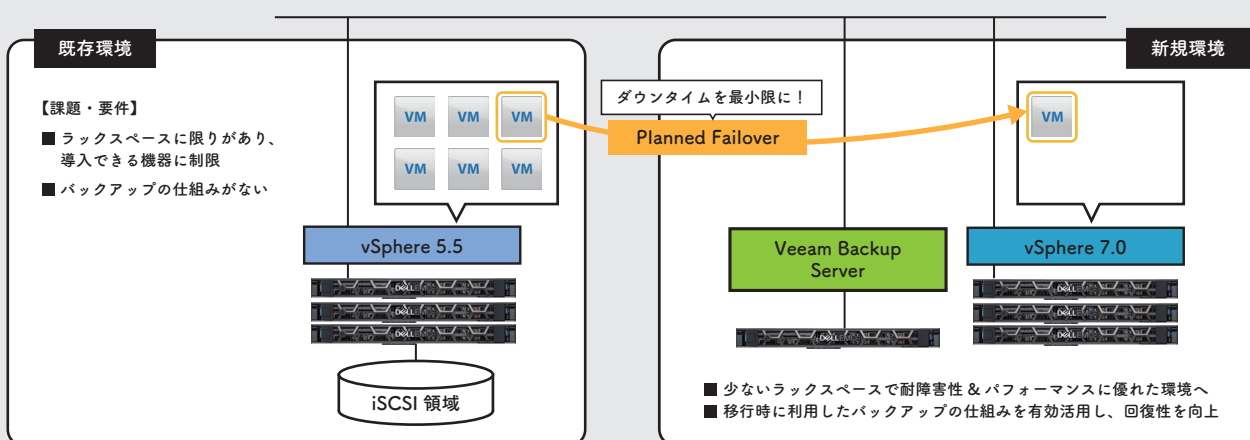
ため、Veeam というサードベンダーのバックアップ製品を使った移行をご提案しています。

Veeam の場合、バックアップデータを格納する筐体や OS ライセンス、ソフトウェアライセンスなどのコストがかかってしまうのですが、移行後も VxRail の仮想マシンのバックアップに活用できるため、コストを無駄にせず堅牢な環境を構築できます。こうしたメリットもお客さまにこの提案を受け入れていただけたポイントでした。

事例：某コンサルティング会社様 | 仮想サーバーの更改

【プロジェクトのポイント】

- 稼働するアプリケーションの開発が追いつかず、バージョンアップできなかった仮想基盤を VxRail へ移行
- 延命措置でアプリケーションの開発に猶予時間を与えとともに、バックアップの仕組みをプラスして耐障害性を UP



— 新井健太

こちらのお客さまはもともと VMware ユーザーだったこともあり、使い慣れた VMware の技術で開発されている VxRail へ移行されましたが、冒頭でご紹介したとおり、VMware ライセンス体系の変更により今後は他社製品への切り替えを検討されているお客さまもいらっしゃると思います。

Nutanix など純正の移行ツールがメーカーから公開されている製品もありますが、お客さまの既存環境がツールの前提条件を満たしておらず使用できないケースや、ツールが無償提供であるがゆえにサポートが手薄となるケースなど、一筋縄ではいかない場合も少なくありません。

S&I では、先ほどご紹介した事例のように、お客さまにどの HCI 製品が適しているか現状を踏まえた検討をするとともに、仮想マシンをどのように移行していくかも計画段階からサポートしていますので、安心してご相談ください。

今後は、一次代理店としてネットワーク製品を中心に扱ってきた H3C の HCI 製品の取り扱いも予定しており、製品検証を進めています。H3C HCI は、H3C が独自開発しているハイ

パーバイザーおよび SDS で構成されます。vSphere よりも後発ではあるものの、vSphere と同様の機能を搭載しており、中国における HCI 市場では高いシェアを持っています。vSphere からの仮想マシン移行機能が管理画面に標準搭載されていることが特徴で、vSphere からの移行先の選択肢の 1 つとなる製品ではないかと考えています。

S&I では、市場ニーズを見据えながら、常にお客さまのご要望に沿ったご提案ができるよう体制を整えています。例えば、柔軟でスケーラブルなインフラストラクチャが求められるクラウドネイティブなアプリケーションやコンテナ化などのニーズ拡大とともに、クラウドとオンプレミスのリソースをシームレスに統合し、ハイブリッドクラウド環境を実現するための選択肢として HCI が採用されるケースが一層増えると考えています。

他社ソリューションからの移行はもちろん、更改や日々の運用面においても、お客さまにとってのメリット・デメリットを考慮したご提案をさせていただいています。